人材の国際移動に与える影響などに関する質問が出されるなど，活発な議論が行われた．また，ジャカルタの国立科学院（Lembaga Ilmu Pengetahuan Indonesia: LIPI）に所属する研究者で構成されるインドネシアのプロジェクトチームからは，日本での技能実習経験のあるインドネシア人帰国者を対象とした調査研究についての情報が提供されるなど，今後の国際連携・共同研究の推進に向けた有意義なネットワークの土台を構築することができた．（中川雅貴　記）

2016年ヨーロッパ人口会議

ヨーロッパ人口会議（European Population Conference 2016）が2016年８月31日～９月３日にかけてドイツのマインツ（ヨハネス・グーテンベルク大学マインツ）にて開催された．ヨーロッパ人口会議は1983年に設立された国際会議であり，主にヨーロッパの人口問題について研究活動を行っており，２年ごとに開催されている．今大会はハンガリーのブダペスト（2014）に続き，「人口学的変化と政策的含意（Demographic Change and Policy Implications）」を主要テーマとして開催された．

大会はオープニングセレモニーにおいて２つの基調講演があり，会期中の３日間では14テーマ（「出生力」「再生産と健康」「家族と世帯」「ライフコース」「高齢化と世代間関係」「国内移動と都市化」「国際移動と移民人口」「健康，ウェルビーイングと疾病」「死亡と長寿」「歴史」「データと手法」「経済，人的資本と労働市場」「政策関連」「開発と環境」）について，123のセッション（約500の口頭報告）と約250のポスター報告が行われた．

当研究所からは山内昌和（人口構造研究部室長），小池司朗（人口構造研究部室長），菅桂太（人口構造研究部室長），鎌田健司（人口構造研究部主任研究官），福田節也（企画部主任研究官）の５名が参加し，下記のポスター報告を行った．

- 山内昌和・小池司朗・鎌田健司“Japan's official subnational population projections accuracy: comparative analysis of projections in Japan, English-speaking countries and the EU”
- 菅桂太“Married women's employment and the timing of the 1st marriage and the 1st child-birth in Japan: patterns and covariates”
- 鎌田健司“Diffusion process of fertility transition in Japan: regional analysis using spatial panel econometric model”
- 福田節也“Gender role division and well-being of the couples: evidence from the Netherlands, Germany and Japan”

（鎌田健司　記）

アジア人口開発議員連盟（AFPPD）
第１回アクティブエイジング常任委員会

2016年９月８日（木）に，ベトナム・ハノイでアジア人口開発議員連盟（AFPPD）第１回アクティブエイジング常任委員会が開催された．前日・前々日には同じ会場でヘルプエイジ・アジア太平洋会議が開催されており，それに連動した形での開催であった．委員会にはアジア太平洋20カ国から29名の国会議員が参加し，アジア太平洋地域の高齢化の現状を確認すると共に，各国の状況の報告を通じて，議論が行われた．筆者は“Reality Check of Asia's Diverse Ageing/Aged Societies: Data & Policy Implications”と題する基調報告を行った．アジア太平洋地域は今後高齢化が進行していく

が，国により程度はまちまちであり，各国の認識・取り組みにも濃淡が見られる．議論の中で，国際人口移動により国内の高齢化が進み，ケアをする子どもがいないという問題，また海外で働いた後で貯金もなく戻ってきた高齢者が多い問題等，移民と関連した問題点がいくつかの国から提示されたのは印象的であった．また委員会の一環で，ハノイにある Bach Nien Thien Duc（百年天徳）ケアセンターという高齢者施設を訪問した．自然を生かし，空調も用いないという方針で設計された施設に，110人のお年寄りが暮らしていた．ハノイには現在12箇所しか高齢者施設がないということで，この施設も４年前に定員数を満たしてしまい，20名の待機者がいるという．ベトナムの高齢者数が増加するなか，家族介護の支援と平行して施設の整備も喫緊の課題となっている状況を目の当たりにした．

（林　玲子　記）

第12回社会保障国際論壇（大分）

第12回社会保障国際論壇（The 12th International Conference on Social Security）が，大分大学が開催校となって，９月10日から11日にかけて大分市で開催された．今回のテーマは「人口・家族の変容と社会保障」であった．この論壇（フォーラム）は，2005年に鄭功成教授（中国人民大学）の発案で日本社会政策学会国際委員会，韓国中央大学などの協力により始まり，以後，日本，中国，韓国の研究者が毎年持ち回りで行っており，今回は４年ぶりの日本での開催である．今回は基調講演のほか，テーマ別セッションとして「医療」，「年金」，「介護」，「社会保障一般」，「貧困と公的扶助」，「社会サービスと地域社会」，「家族の変容と社会保障」，「若手セッション」などで研究発表や議論が行われた．これらのセッションでは，医療，年金，介護といった人口高齢化に関係する社会保障に関する研究報告の他，家族の変容という人口に最も関係が深いセッションでの研究報告も行われた．日本，中国，韓国などから100名を超える参加者があった．当研究所からは２名が参加し，以下の報告を行った．

小島克久（国際関係部第二室長）「台湾における外国人介護労働者の現状―地域別に見た分析―」（社会サービスと地域社会）

是川　夕（人口動向研究部主任研究官）“A Socio-economic Status of Immigrant Women in the Gendered Migratory Processes; Are They "Double Disadvantaged" ?”（家族の変容と社会保障：英語セッション）

なお，次回の「社会保障国際論壇」は2017年９月に中国の南京で開催される予定である．

（小島克久　記）

第26回日本家族社会学会大会

第26回日本家族社会学会大会が2016年９月10～11日に早稲田大学戸山キャンパス（東京都新宿区）で開催された．大会は５つのテーマセッション，２つの国際セッション，９つの自由報告セッション，１つのラウンドテーブル，「専門家による家族介入の現在―家族を外側から支える実践―」と題する公開シンポジウムで構成され，各セッションと公開シンポジウムでは計68件の報告があった．

家族を標榜する学会の大会ということもあって，人口現象に関連した報告は多かった．例えば，テー